支部大会，1978．10，大阪．

5） 上村清：エステラーゼ・アイソザイム・パターンからみた日本産アカイエカ群の系統について，第5回アカイエカ研究会，1978．10，大阪．

3．原　著

1） 渡辺護，上村清，小泉泰久：クサギカメムシの周年経過と卵巣発育過程について．富山県農村医誌，**9**：95－99，1978．

4．著　書

1） 上村清，近藤力王至：衛生動物学――吉村裕之編，149～235頁，寄生虫学新書第6版，文光堂，1978．

5．その他

1） 本田幸子，林美貴子，村瀬均，上村清，村井貞子，松島幸夫：先天性代謝異常マススクリーニングにおける成果について．富山衛研年報　**52**：22－26，1978．

2） 上村清，渡辺護：コガタイエカとシナハマダラカ群の発生消長の違いについて．富山衛研年報 **52**：29－37，1978．

3） 上村清，福島優子，原井典子：チカイエカの発育ステージによるエステラーゼ酵素活性の違いについて．富山衛研年報　**52**：38－43，1978．

4） 上村清，原井典子，福島優子：エステラーゼのアイソザイムパターンから見た「アカイエカ群」の系統について．富山衛研年報　**52**：44－49，1978．

5） 荒井優実，渡辺護，上村清：立山におけるクロバエ類の分布とその季節消長（1975～1977年）．富山衛研年報　**52**：50－53，1978．

6） 渡辺護，上村清，小泉泰久：クサギカメムシの生態と駆除について・1．室内飼育法の検討と卵巣発育過程．富山衛研年報　**52**：56－59，1978．

7） 上村清，渡辺護：アベイト，スミチオンの水和剤によるブユ幼虫駆除の検討．富山衛研年報 **52**：60－62，1978．

8） 上村清，渡辺護，長谷川澄代，香取幸治，松浦久美子，森田修行：日本脳炎流行予測調査について．富山衛研年報　**52**：82－89，1978．

細菌学・免疫学

教　授　小西健一
助教授　山岸高由
助　手　桜井信也
助　手　坂本憲市
助　手　石坂伸太郎
文部技官　井上裕美子

1．研究概要

1） 免疫学的寛容現象の基礎とその応用に関する研究：寛容におけるハプテン――蛋体蛋白関係から抗体の多様性を証明するとともに，血中抗体と細胞性抗体の生成過程における本現象の意義を究明することによって，抗体と生体防禦能との関係解明を行っている。応用面では本現象がある場合――決定群の構造と位置による――には不要抗体の生体内吸収法として有用であるとの知見を利用して，抗癌組織血清を得，これと被検者血清中の“癌抗原様物質”との反応を行うことにより癌の血清学的診断法として用いうる可能性を認め，この方法を改良することにより早期癌の検診手段として用いるべく検索しており，免疫療法への進化発展を追求している。

2） 遅発型皮膚反応の発現機序解明：遅発型皮膚反応の発現がアジュヴァント効果によることは見出しているが，更にT-cell，B-cell 系統との関連を細胞レベルで検討している。

3） 腸内細菌の生物学的意義：近来各種感染症における嫌気性菌の意義が注目されているが，当教室ではこれと関連の深い腸内正常細菌叢に着目し，これと生体との関係を検討している。*Cl. perfringens* を中心とする嫌気性有毒菌，発癌物質産生菌，発癌抑制因子の存否等を探求している。

4） 非定型抗酸菌の病因論：皮膚結節等の起因菌が *Mycobact. marinum* 他の非定型抗酸菌によることを明らかにしたが，更に検討した結果観賞用水槽と密接な関係があることが証明された。

2．学会報告

1） 石坂伸太郎，坂本憲市，桜井信也，山岸高由，小西健一：土壌の *Clostridium perfringens* による汚染について．第32回北陸医学会総会　1978．9，金沢．

2） 刑部陽宅，山岸高由，児玉陽英，渡辺正男，*Clostridium perfringens* C 型生菌に対する結紮家兎腸管の反応．第15回日本細菌学会中部支部総会 1978．10，名古屋．

3．原　著

1) 金原武司，鍛治友昭，大槻典男，佐野勉，瀬戸勇，川島愛雄，福代良一，山岸高由，尾角信夫，北村清隆，藤田幸雄：皮膚の*Mycobacterium marinum* 感染症．皮膚臨床 **20**：8796，1978.

2) 山岸高由，小西健一，吉田知孝，伊川和美，佐藤ひめ子，松田知夫，尾角信夫，金原武司：皮膚結節および熱帯魚水槽中の抗酸菌について．金大医短紀要 **2**：117－121，1978.

4. その他

1) 山岸高由，小西健一，尾角信夫，吉田知孝，松田知夫，金原武司：皮膚結節由来の非定型抗酸菌について．日細誌 **33**：554－555，1978.

2) 山岸高由，高橋謙太郎，高畠学，高折雅章，中村信一：乳幼児，成人および老人の糞便菌叢について．日細誌 **33**：560，1978.

ウ　イ　ル　ス　学

教　授　庭　山　清八郎
助教授　落　合　　宏
助　手　林　　京　子

1. 研究概要

1) インフルエンザの流行様式と遺伝学的特性についてここ10数年来，赤血球凝集試験，赤血球凝集抑制試験および交差吸収赤血球凝集抑制試験を基礎とする抗原分析を通じて研究を行なってきた。これらの結果はインフルエンザの流行予測とワクチン製造の面に強く反映されてきた。今後更に研究を発展させ発育鶏卵と組織培養法を併用してインフルエンザウイルスの特異蛋白と核酸の分析を通じて，本ウイルスの増殖様式と変異の分子機構について研究を行なう。一方ヒト以外の動物（トリ，ブタ）のインフルエンザウィルスについても同様の実験を行ない，ヒトの流行におよぼす動物由来ウイルスの役割について研究を行なう。

2) 各種ウイルス感染症（特に風疹，ヘルペス，ロタ，パラミクソ）のウイルス学的検索，血清学的検索を行なう。

3) 制癌剤，抗ウイルス剤の開発：人癌由来確立細胞系を使って各種制癌剤の感受性測定を寒天平板拡散法によって行なってきた。本方法の臨床応用の検討と共に，土壌由来放線菌，真菌，キノコ等の産生する制癌物質の開発を行なう。抗ウイルス剤についてはエッグシェルカルチャ法によって同様の実験を行なう。

2. 学会報告

1) 芝田充男，岩瀬勇雄，庭山清八郎：1978年分離したA（H_3N_2）型および（H_1N_1）型インフルエンザウイルスの抗原分析について，第26回日本ウイルス学会総会，1978．10，東京.

2) 芝田充男，阿部昭也，落合宏，庭山清八郎：非細菌性急性胃腸炎患者に対する NCDV ならびに Reo virus like agent によるHA，HI 試験について，第15回日本細菌学会中部支部総会，1978．10，名古屋.

3. 原　著

1) 芝田充男，篠川至，庭山清八郎，岩瀬勇雄：Aブタ1型インフルエンザウイルスの分離と疫学調査．日本医事新報 **2841**：43－49，1978.

2) 古泉快夫，庭山清八郎，仁田原義之，宮村定男：紅麹菌産生色素の毒性について．新潟医学会雑誌 **92**：815－820，1978.

3) 庭山清八郎，落合宏，芝田充男，阿部昭也，宇野由紀子，岩瀬勇雄，佐藤征也：蛍光抗体法によるインフルエンザの迅速診断に関する研究．新潟医学会雑誌 **92**：838－844，1978.

薬　理　学

教　授　中　西　頴　央
助教授　武　田　龍　司
助　手　百　瀬　弥寿徳
助　手　山　崎　弘　美
文部技官　奥　村　慶　子

1. 研究概要

1) 中西頴央・山崎弘美・奥村慶子：①アルコールならびにアルデヒドの薬理，②ラット肝アルデヒド脱水素酵素についての研究，③ラット肝ミクロゾームのmixed-function oxidase system についての研究.

3) 武田龍司・百瀬弥寿徳：アルコールならびにアルデヒドの薬理①平滑筋の電気活動および収縮運動に対する薬理作用の研究，②中枢神経系ニューロンに対する薬理作用の研究.

2. 学会報告

1) 中西頴央，山崎弘美，奥村慶子，塩原ゑい子，塚田美代子：Trichloroethylene 処置ラットにおける肝aldehyde dehydrogenase 活性と血中acetaldehyde レベル，第51回日本薬理学会総会，1978．3，仙台.

2) 奥村慶子，山崎弘美，中西頴央：Chloral hydrate ならびにtrichloroethanol のラット肝NAD